

出題分析			
試験時間	75 分	配点	150 点
		大問数	2 題
分量 (昨年比較)	[減少 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 難化]
【概評】 〈現代文〉 問題文の分量・設問形式ともに例年どおりの出題。2023・2024 年度に出題された、同一出典の別個所を引用した設問は 2025 年度では出題されなかった。 〈古文〉 問題文の分量・設問形式ともに例年どおりの出題。比較的読解のしやすい文章ではあったが、受験生には仏教説話特有の語の用法がやや難しかったかもしれない。			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
一	現代文 (評論) 納富信留 『世界哲学のすすめ』 ○行数：131 行	人間という生物種ゆえに生じる、自然科学・哲学における普遍性にまつわる問題を論じた文章。(一)の内容説明問題の選択肢 1 は「論じる対象は普遍性であるとされている」が不適當。(二)の内容説明問題の選択肢 5 は「神話的思考を体系化」が不適當。(六)の記述問題は、中島隆博の論と、傍線部直前の内容を踏まえる。 ※ (昨年度) 評論、108 行、6 問 (6)	標準 〈問題文〉 標準 〈設問〉 標準
二	古文 (鎌倉・説話) 無住 『沙石集』 ○行数：23 行	人にはそれぞれ習癖や好みがあることを踏まえ、自分に合った宗派での帰依を勧める文章。(一)の語句問題 a は標準。(二)(三)の現代語訳は、それぞれ「みづから」「よしなき事」の意味に注意する。(五)の主語確認問題は、選択肢 5 が筆者の一人称であることを押さえておく必要があった。 ※ (昨年度) 平安・説話、20 行、7 問 (8)	標準 〈問題文〉 標準 〈設問〉 標準

※「行数」は問題文の行数。同志社大学の問題文は通常 57 字/行 (20 行/頁)。

※昨年度のデータは、同一日の試験問題にもとづく。

設問構成 (設問数・形式・内容)													
大問 番号	設問数 (枝問総数※)	選択式 枝問数	記述式 枝問数	漢字	内容 説明	理由 説明	全文 把握	空欄 (脱文) 補充	主語 確認	現代 語訳	訓読 訓点	語句 文法 知識	その 他
一	6問 (6)	5	1		5>1		1						
二	7問 (10)	9	1		2>1		1		3	2		2	

※「枝問総数」は、各設問（小問）に含まれる枝問も個々に数えた場合の全設問（小問・枝問）の総数。設問形式・内容別の設問数も、これと同様の方法で算出した（ただし漢字の読み・書き取りの設問は、枝問に分かれている場合も設問単位で「1問」と数える）。

※「設問内容」の「>」の後の**太字斜体の数字**は、記述式の枝問数を示す。

合格のための学習法
<p>〈現代文〉</p> <p>同志社大では長文が出題されるので、時間配分にも気を配り、一定程度の速読を意識した読解練習を積んでおくとういだろう。</p> <p>〈古文〉</p> <p>知識問題や現代語訳・内容説明問題などがバランスよく問われる。全体的に良問がそろうため、落ち着いてとり組めば対応できる。</p>